

## 8月自然観察会報告

### 燕の埒入り・平城宮跡大極殿西側

富江 文雄

毎年春になると南から渡ってくるツバメは夜に集まって眠る場所を持っています。

それをツバメの埒（ねぐら）と呼びますが、平城宮跡の西側に広がるヨシ原は関西地方最大の集団ねぐらといわれています。

8月8日（月）午後5時半近鉄大和西大寺駅に集合。会員、その家族、シニア自然大学校生老若男女23人が参加しました。

天候は晴れ、日没が6時45分頃なので十分な時間があり、まだまだ暑さの厳しい中、ゆっくりと観察場所である大極殿西側に歩いて行きました。

埒入りのながれ

1. 平城宮跡にツバメが集まり始める。
2. ねぐらの上を群れになって旋回する。
3. 日没後、ねぐらに降りてくる。
4. ねぐらで鳴きかわす。（情報交換？）
5. 静かになる。（眠りにつく）

6時半頃、ぼつぼつ集まり始めるも集団化しない。6時45分頃に太陽が西に沈むと急速にツバメの数が増え始めた。



（ツバメの乱舞）

低空飛行するもの、上空を飛び回るもの、右から左から後ろから、どんどん数が増えカメラでその姿を撮影しようにも飛ぶのが早く、動き回るので焦点が合わない。

7時15分頃、あたりがかなり暗くなってきてどんどんとねぐらに降りてくる鳥の数が増えた。観察者の頭ぎりぎりを飛んでくるツバメ、中にはフンを落とす鳥もいて、見学者の間で感嘆の声があがった。



（ヨシ原を見る）

地表面はかなり暗くなっているが、上空はまだ明るさがあるのでまだしばらく鳥の旋回がみられた。

7時半にはすっかり暗くなり、鳥の声もほとんど聞こえなくなって、眠りについたものと思い我々も帰途に着いた。

一体どのくらいのツバメが集まったのか、3万？、4万？、それとも6万羽？ とても数え切れるものではないが、自然がもたらす不思議な現象に感銘を受けた。

埒入りは9月中頃まで毎日続くようです。（天候により数は変化する）。

次の自然観察会は9月12日（月）初秋の歌姫街道です。